お茶会 × 多摩美術大学 卒業制作展

2 月 20 日より多摩美術大学 4 年生の作品展示を行います。

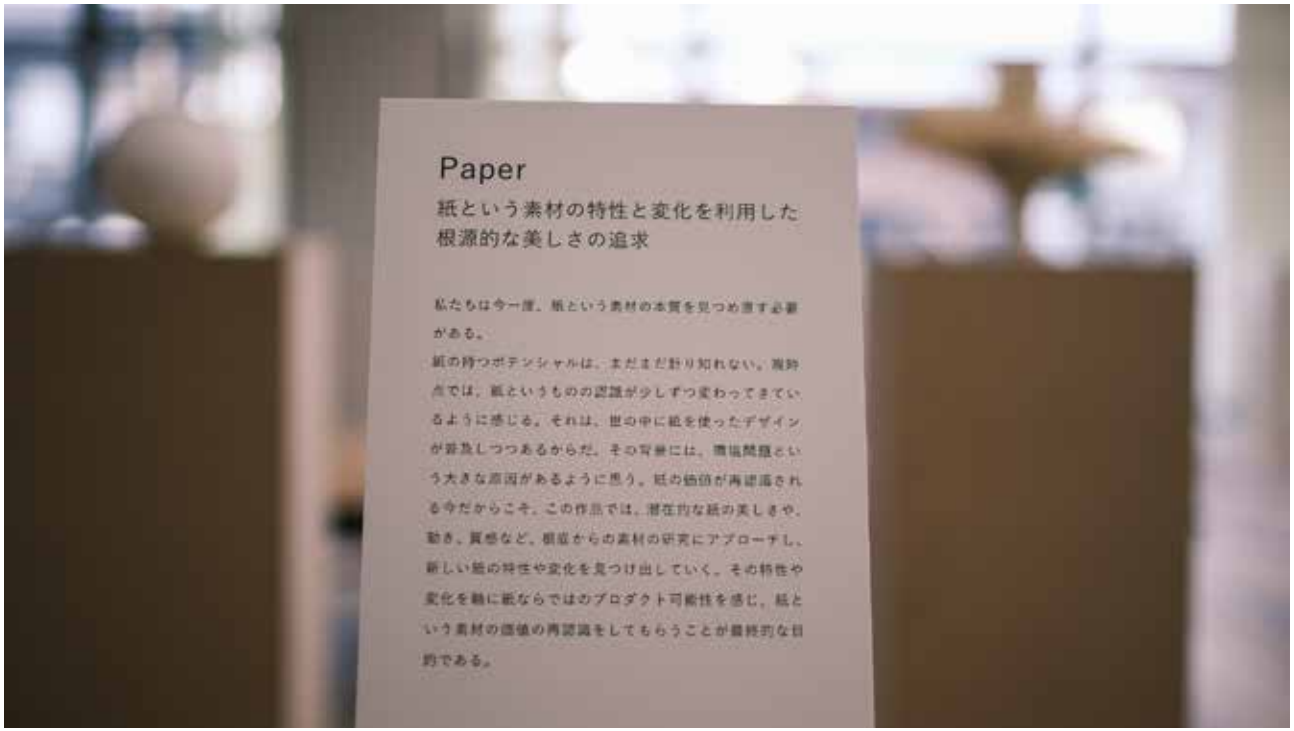
あわせて、2 月 21 日（金曜日）にラペ二子玉川 1 階お茶室にてお茶会を開催いたします。

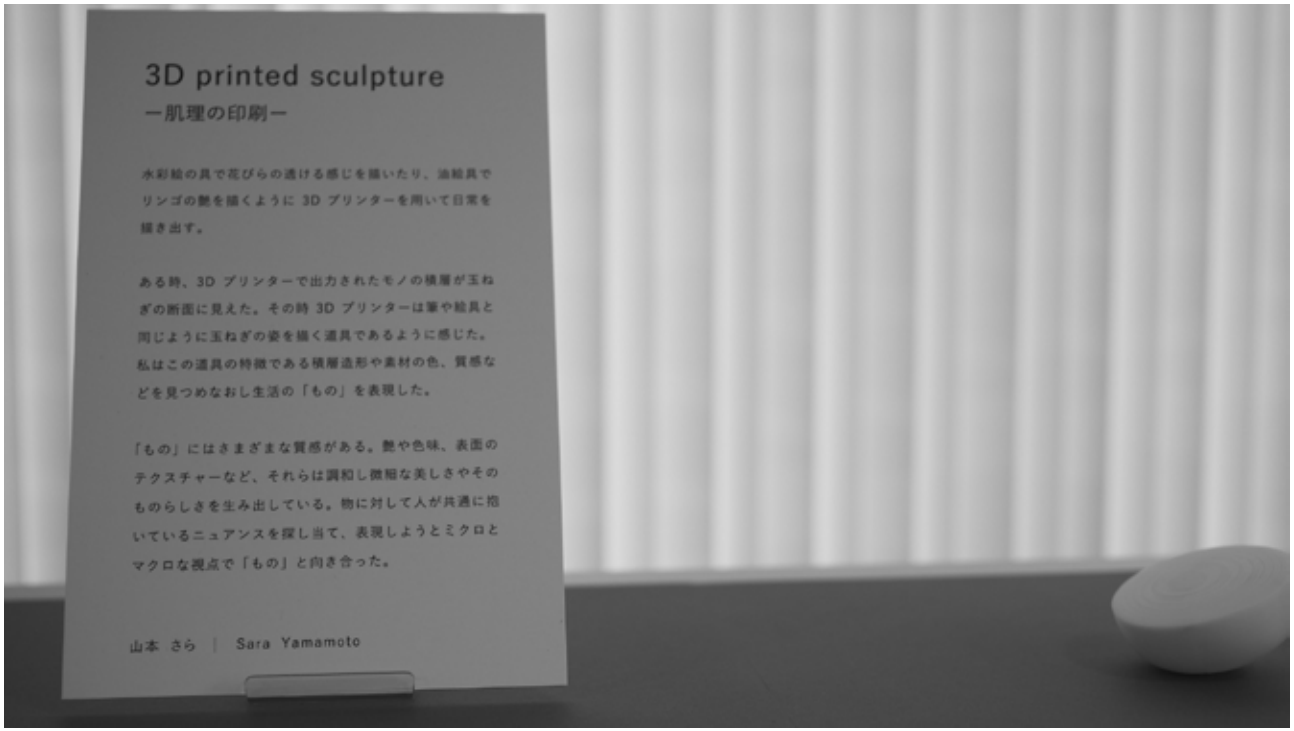
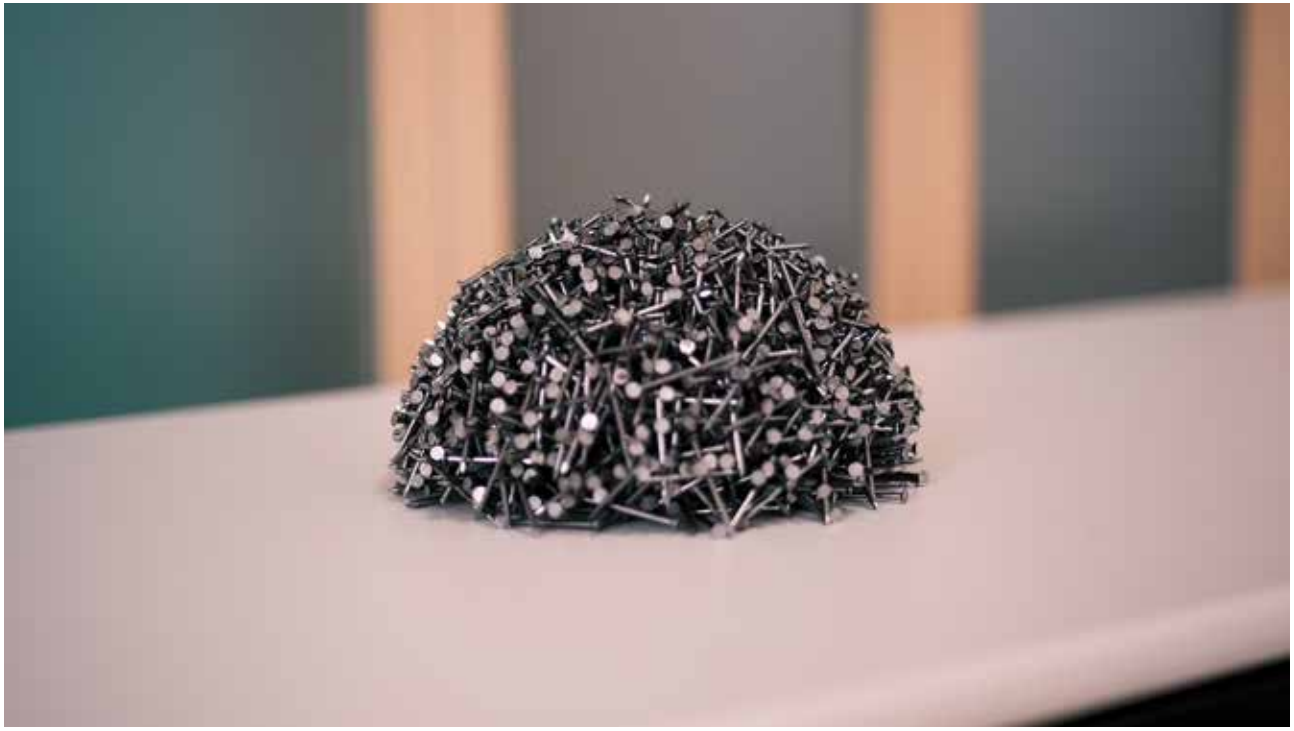
お茶会は延期となりました。

学生の作品を観ながらお茶会をお楽しみください。

ご家族の皆様もお気軽にご参加ください。

消火器
Fire Extinguisher


Paper
紙という素材の特性と変化を利用した
根源的な美しさの追求
私たちは今一度、紙という素材の本質を見つめ直す必要がある。
紙の持つポテンシャルは、まだまだ計り知れない。現時点では、紙というものの認識が少しずつ変わってきているように感じる。それは、世の中に紙を使ったデザインが普及しつつあるからだ。その背景には、環境問題という大きな原因があるように思う。紙の価値が再認識される今だからこそ、この作品では、潜在的な紙の美しさや、動き、質感など、根底からの素材の研究にアプローチし、新しい紙の特性や変化を見つけ出していく。その特性や変化を軸に紙ならではのプロダクト可能性を感じ、紙という素材の価値の再認識をしてもらうことが最終的な目的である。


3D printed sculpture
ー肌理の印刷ー
水彩絵の具で花びらの透ける感じを描いたり、油絵具でリンゴの艶を描くように 3D プリンターを用いて日常を描き出す。
ある時、3D プリンターで出力されたモノの積層が玉ねぎの断面に見えた。その時 3D プリンターは筆や絵具と同じように玉ねぎの姿を描く道具であるように感じた。私はこの道具の特徴である積層造形や素材の色、質感などを見つめなおし生活の「もの」を表現した。
「もの」にはさまざまな質感がある。艶や色味、表面のテクスチャーなど、それらは調和し微細な美しさやそのものらしさを生み出している。物に対して人が共通に抱いているニュアンスを探し出て、表現しようとミクロとマクロな視点で「もの」と向き合った。
山本 さら | Sara Yamamoto